

2026 年度入学試験問題 出題趣旨（刑法）

第 1 問

本問は、防衛行為の効果が第三者に及んだ事例を素材に、因果関係、錯誤論、正当防衛、緊急避難といった刑法総論の重要論点についての理解を問うものである。

まず、X が B に向けて車を急後退させた行為に関して、構成要件該当性を簡単に検討したのちに、正当防衛の成否を検討する必要がある。その際に、X が B らによる侵害を予期していた点の評価が問題となる。

次に、X が意外にも、E に接触し、E が頭部外傷のため死亡した行為についての評価が問題となる。構成要件該当性に関して、X の行為と E 死亡結果との因果関係、X の故意の有無の検討が必要となる。そのうえで、X の行為に関する緊急避難及び誤想防衛の成否を検討する必要がある。

一見複雑にみえる事案について、犯罪の成立過程をたどりながら、順々に、一つひとつ丁寧に検討する能力を試すものである。

第 2 問

本問は、財産犯の重要論点についての理解を問うものである。

まず、財布を持ち出した行為が窃盗罪に該当するかを検討する必要がある。死者の占有を肯定するかを中心として、被害者の同意、親族相盗例の適用、事後の化粧品購入行為の評価などが問題となる。

次にドレス購入行為について詐欺罪の成否が問題となる。家族名義のクレジットカードの使用が詐欺に該当するかが問題となるが、本問ではその家族が死亡していることをどうみるかの検討が必要となる。

典型例ではない事例への適応力を評価する問題である。